



## 戦後80年 平和運動の原点

石原艶子

○人を生かす者は自分も生きる。人を殺す者は自滅の道をたどる（つや子）  
○天然のごとく自由なれよ。神の子となれよ。又天然の子となれよ。何も持たないのに似ているけれど、すべての物を持っている。私たちは天の霊を呼吸して生きる者である。世に実は私たちに優る富者はないのである。

（内村鑑三）

○はきだめにえんどう豆咲き 泥沼から蓮の花が育つ 人皆に美しき種あり 明日何が咲くか（安積徳也）

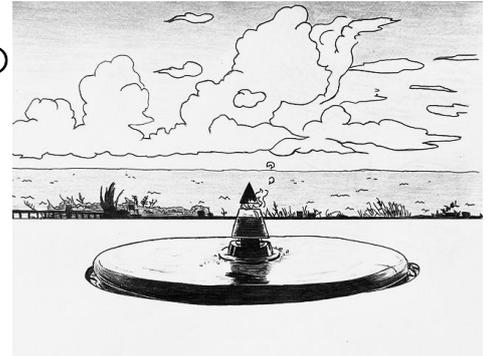


イラスト:大城旋律(孫)

### 平和への祈り

"天にまします我らの父よ み国をきたらせたまえ みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ、"  
"イエスは言われた「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆剣で滅びる。」"

### ☆悲しい沖縄 天皇制の下で

わかってももらえない悲しみ、多くの方は自分の考えが正しいと思っている。確かに人間は体験してみなくては分からないという限界はあるけれど、人には心がある。心は想像し悲しみ、痛みを共有する、心は優しい、寄り添うことが出来る。知識はしばしば間違い、思い込み、誤解の上に立つ。謙虚になって相手の言葉に心の耳を傾けたら、絶対に聞こえてくるものがあるはずだ。沖縄は80年前の戦争から今日まで分ってもらえない悲しみを抱えてきた。何故か？そこにあるものは無意識、無関心の沖縄差別である。本当のことを、歴史の事実を語っても信じてもらえない。そしていつしか沖縄の人々の心にも諦めなのか、同調することによってそこに居場所を求める妥協的精神が生れてしまった。日本という国が根本的に誤っているからである。それは何か？天皇制である。皇国思想の下では天皇のため、すべてが良しとされ個人の悪さえも美化されてしまう。沖縄は日本軍によって多くの住民の命が奪われた、この事実を何故、認めないで皇軍を美化するのか。友人がつぶやきました。「日本軍は韓国、中国、アジアの国々を侵略した。その暴力的悪はあまりにも残虐非道悪魔的でさえある。日本軍が持っていたこの残虐性そのままの性格が、沖縄戦でもそのままに、住民にふりかかったのだ」と。これが皇軍の実体であったのだ。そこにはアジアの人々を蔑視したと同じ沖縄蔑視があったのだと思います。「軍隊は住民を守らない」これは沖縄では常識です。どれだけ日本軍がひどいことをしたか知って欲しいと思います。西田参議院議員発言に怒るのは当然です。天皇は人間宣言をし、象徴天皇制になったとは言え、日本人の中に根深く生き続け、その思想、価値観を支配しています。国歌が「君が代」であることがそれを証明しています。一度天皇制を捨てることを考えてみませんか。もっと生きやすい、極右や日本会議などの考えのない、真に民主的な個人の自由と尊厳が守られる国であってほしいと願います。

「生ける魚は水流に逆らって遊び、死せる魚は水流と共に流る。」（内村鑑三）の言葉が生きて私たちに問いかけます。流れのままに流されるとは、横軸との関係だけで動き縦軸がないことである。横軸だけ、流れのまま、同調しその場を生きる。あなたは縦軸を持っていますか。縦軸とは何ですか。それは神と自分との軸である。自然と自分との対話である。真の人間になることである。その人は絶対に戦争を肯定しない人となる。

○戦争さえなかったら、戦争さえなかったら、戦争さえなかったら、戦後80年、あの時代を生きた青年達の声が聞こえてくる、私は涙が止まらない。国家が国民の人生を奪うことを私は絶対に許さない。だから戦争につながるすべてのことに反対する。圧倒的多数の国民が声を上げれば政治を変えることができる。責任ある主体としてあなたとわたし、繋がって繋がって共に平和をつくり、ぬちかじり今を生きよう!!

○大空に向かって叫ぶ!! 殺してはならない、殺してはならない、殺してはならない! あなたが殺しているのはあなたと同じ人間なんですよ、自分を殺すことと同じなんですよ!! 何度叫んでも叫び足りない。然し、人は人を殺し続ける。叫んでも空しく声は返ってくる。それでもそれでも、それでも叫び続けよう、叫ぶことをやめてはいけない「殺してはいけない」と。

○宇宙に浮かぶ青い星、それは地球、なんと、なんと美しいのだろう!! 光り輝いている、言葉を失い息をのむ!! 大気に包まれて、雨が降り、風が吹く、海は生命を育み青く輝いている。海に囲まれた大陸と島々は緑に包まれ、大陸には大河が悠々と流れている。宇宙人がこの青く輝く星を見て言った。「あの星に行ってみたいな、住んでみたいな」と。でも宇宙人が来ることは出来ません。宇宙人はつぶやいた「あれは神様が神に似せて造られた人間だけの星なんだ、だから私たちは行くことが出来ないんだ」と。耳をすますと命の歌が聞こえてくる、山々の輝き、草原の輝き、食物を生み育む大地の輝き、キラキラと輝く海、風に乗って波に乗って聞こえてくる、サンゴや魚たちの歌声が。地球、地球、地球、青く輝く宇宙でただひとつの星、こんな素晴らしい星に住まわせてもらっている人間とは一体何者なのか。神が特別に愛されている存在に違いない。しかし人はいつの間にか青い星地球に住まわせてもらっていることを忘れてしまった。地球を壊し続け、地球を支配する者になってしまった。こんなに豊かに豊かにすべて必要なものを与えられ、守られ、生かされてきたのに、人は忘れてしまった。与えられている愛を、恵を忘れてしまった。人はいつの間にか地球をわがものとして支配し、果てしない欲望のために破壊する者となり果てた。欲望と欲望はぶつかり合い、奪い合い、争う者となり人は自ら不幸を招き、滅びを招き殺し合う者となり果てた。地球は泣いている、地球は泣いている、地球は泣いている、と叫び訴え続けても人は聞く耳を持たず、破壊は止まらない。北極圏の永久凍土が溶けて海の道が開けると、そこに眠るぼう大な鉱物資源の争奪戦が始る。また海の底の底までもの鉱物資源を奪い尽くそうと企む欲の人間たちが居る。何のために? 強大な力を得て世界の覇者になりたいのか? 力はいつかは滅びるもの。力なんていらぬ。いるのは光り輝く青い星に生かされていることを感謝する心、人と人とが愛し合って共に生きる世界をつくること。人間の内に善と悪はせめぎ合い、悪の力が善を奪い尽くしたかに見えるけれど、善なる人々は生きている。彼等は、金だけ力だけの世界には決して生きられない人々である。人間に与えられている善と愛に生きる人々は、地球の呻きを聴くことの出来る人々である。天の霊を呼吸して生きる真の富者なる人々である。そんな一人に自分になること、そこから希望は生れると私は信じる。

## ○早い速度で変り行く世界

少子高齢化、人口減少、農業者人口減少、食糧危機、進行する格差社会などなど。孫たちの生きる時代は困難と不安に満ちている。誰も生きる時代を選ぶことは出来ない。友人の小山宥一さん(長野県)のフェイスブックに紹介されていた記事が心に留まり、皆さんと共有し考えてみたいと思いました。

『森永卓郎さんは、昨年書いた著書「身辺整理」のあとがきに書いている「多くの人は株価が下っても再び上昇する時が来るから長い目で見れば損はないと考えているが、資本主義が終れば二度と株価が持ち直すことはない。資本主義の父と呼ばれる思想家カール・マルクスは資本主義の限界は4つの点で現れると示唆している。

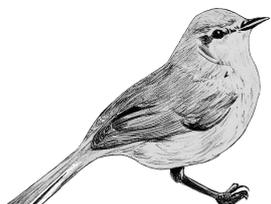
①許容できないほどの格差社会になる。②地球環境が破壊される。③少子化が止まらなくなる。④ブルシット・ジョブ、つまりクソどうでもいい仕事ばかりになって、人々が仕事に生き甲斐を見い出せなくなる。現代社会はもういっぱいいっぱいのところまで来ているのだ。しかし、このことを誰も言わない。だから本書の最後にハッキリと伝え経済アナリスト森永卓郎の遺言としたい」と。』

百数十年も前の資本主義の成長期に生きたカール・マルクスの予言は見事に今日の社会を言い当てているではないか。人類はこのまま終末を迎えるのか？生き残る道はあるのか？醜い争いなどしている場合ではない。（小山宥一 フェイスブックから）

人類が生き残る道は唯ひとつある。それは絶対に戦争をしない社会を造れるかどうかにかかっている。私たちは人類がこの深刻な危機に直面していることに気付いて、今、行動しなくては間に合わない。もう手遅れかも知れない。もういい加減死の商人で栄える資本主義とはきっぱり縁を切って平和産業を起こしていこう。人を殺す核兵器はいらない、ミサイルも、戦闘機も、オスプレイも、ドローン兵器もみんなみんないらない。軍拡 NO の声を高めよう、もっともっと沈黙せずに叫ぼう、人類の未来のために。核抑止力、軍拡は戦争抑止のため？みんな嘘、虚偽を信じて多額の国費を軍拡に使い、弱き国民を見殺しにする政治を許してはいけない。然し、止めようもない大波が私達を飲み込んでいく。自然破壊と戦争は止まらない。戦後80年の沖縄、慰霊の日を迎える沖縄、何故、辺野古の新基地建設をやめられないのか。何故、宮城島の土砂が辺野古の海に投入されるのか。人類は資本主義の中で富をのみ追求し極限までできてしまった。恐ろしい破局が待っている。悲しみ、呻き、沈黙、天地万物のかけがえのない生きとし生けるものの命の叫びが聞こえる。地球は人類だけのものではない!!

### 宮城島抗議行動No.3

五月、緑まばゆいのどかな宮城島にうぐいすの鳴き声、日々変わりゆく鉾山の姿を見上げ、悲しみに打ちのめされる私たちは、決して諦めることなくムカデになって抗議行動を続けている。うぐいすはすべてを知っている。もう来年はあの鳴き声を聞けないかも知れない。ダンプの出入口はたったの10メートル程の中である。そこに鉄板が敷かれている。梅雨が明けての猛暑、照りつける太陽の下、鉄板の上は40度を超えているであろう!!ムカデになって歩く私たちの靴はととても熱い。一日40台と決められていた農道なのに、防衛局はなりふりかまわず今現在、一日200台のダンプで搬出している。のどかな宮城島は一変!!レンタカーの観光客や地元の人々の車はカーブの多い道をダンプに挟まれて危険である。防衛局はムカデ歩きの抗議行動を少なくするためなのか、一回のダンプの数を50台以上に増やしてきた。当然ムカデ歩きも時間をかけるようになっていく。たった10メートルを40分~50分かけて歩く、それは歩いているか止まっているか分からない程の状態である。これを私はミリミリ歩行と言う。ミリミリ歩行は足、腰、ヒザに大きな負担となり、高齢者には過酷な行動である。熱中症のリスクも心配である。この現場で決して一人として倒れてはいけないと思う、まさにギリギリの行動である。健康管理は自分でしっかりしなくてはいけない。ムカデ歩きのミリミリ歩行、一体いつまで私達はこのような行動を続けなくてはならないのか。戦後80年の今、ここで起きていることは決してあってはならない異状事態なのです。ここに立っている警備員、機動隊、防衛局の人、鉾山の人みんなみんな国の犠牲者、誰もこんなことしたくないはず、でも陰の奥で誰かが動いてこの現実が生れて



いる。有事を語る政治家たちは戦争の下地作りをしている、一体誰が有事を望み企てているのか。中国は台湾が独立しない限り、決して同胞が住む台湾を武力攻撃することはありません。現状維持で平和を保てるはず。戦後80年、アメリカの現状を冷静に見つめ、日本独自の平和への道を、憲法9条を生きる道をこそ、今選択すること。そしたら辺野古新基地もいらない。宮城島も壊されない。うぐいすが鳴く宮城島を守りたい。

## ○農滅びて国滅ぶ

われらは、農こそ人間生活の根底たることを確信し、天地の化育に賛して、衣食住の生産に精進せん。

(愛農会綱領の第一)

コメ農家「時給 10 円」「令和の百姓一揆」高齢化、離農、後継者なし、限界集落、里山消滅、まさに日本国の危機、現農政では農家が消える。令和の百姓一揆実行委員会代表の菅野芳秀さんの哲学「晩秋、枝から落ちそうな熟した柿の実に今の農業を重ねます。朽ちて落ちそうな実は『俺には未来はない』と語るだろう。だけど中の芽生える準備を整えた種は『希望』を語るに違いない。多くの人と手を取り合って農政を転換し、次世代に希望を渡したい。みんなでなるべえ柿の種だ。」と。

{百姓は自立する。生命を守りはぐくむ、金にしばられない、大地の恵みに生きる。世界をつなぐ心となる。(愛農会の願い)}

## ※訂正とお詫び(月桃通信No.45)

〇うつぐみの会の大野悦子さんの住所を間違って神奈川県福生市と書きましたが東京都福生市でした。

〇うるま市が米軍基地面積が県内一番と書きましたが、面積ではなく米軍基地関係施設の数の事でした。

## ◎うつぐみの会への感謝

2020年より、うつぐみの会の大野悦子さんが、沖縄辺野古新基地反対運動への支援、辺野古基金のための協力活動を始められて、私が窓口となって今日まで活動して参りました。リサイクル着物、帯、布など月桃通信を通して多くの皆様が沢山提供して下さいましたお陰で、手提げ袋、服、各種バッグなど大野さんと仲間の皆様の手作り作品を販売することが出来ました。コロナ禍では沢山のマスクを作って下さいました。販売のためには、本土の友人達が各々の団体や行事などで販売に協力して下さいましたお陰で順調に販売して参りましたが、2025年の今、窓口である私自身の体力的限界も感じる中、状況も目まぐるしく変わり、販売が困難となりましたので、熟慮の末沖縄での窓口をお休みすることに致しました。この五ヶ年間、多大なる御協力、御支援下さいましたお一人お一人に心より感謝致します。そして辺野古沖縄への愛と祈り一筋に魂を注ぎ出して労をいとわず御尽力下さったうつぐみの会の大野悦子さんと皆様に心より感謝致します。窓口お休みと申しまして在庫もありますので、うつぐみの会の作品は取り扱いしております。リサイクル着物、帯、布などの受領はお休みとします。うつぐみの会は健在です。沖縄への愛は不滅です。いつもつながって励まされ支えられています。ありがとう!!ありがとうございます。

●あみの会は地元うるま市の活動として頑張っています。うるま島ぐるみの活動を少しでも支援できること、その他いろいろの形で頑張っておられる方達を少しでも支援できることを喜びつつ、山田博子さんと仲間の方々が作品作りに励んでおられます。リサイクル系を提供して下さい方、販売に協力して下さい方、お一人お一人に心より感謝致します。今後とも御協力よろしくお願い致します。リサイクル系など提供して下さい方は石原まで御連絡下さい。

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

自宅：098-964-3237 携帯：090-4471-1942 Email：yuuwanoie@gmail.com

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号：12260 番号：12650271 イシハラツヤコ